

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2012年3月6日

所属：教育文化学部/国際言語文化課程/国際コミュニケーション選修3年

学籍番号：1509338

氏名：菅原 南

派遣先大学名：ブカレスト大学（ルーマニア）

在籍身分：交換留学生

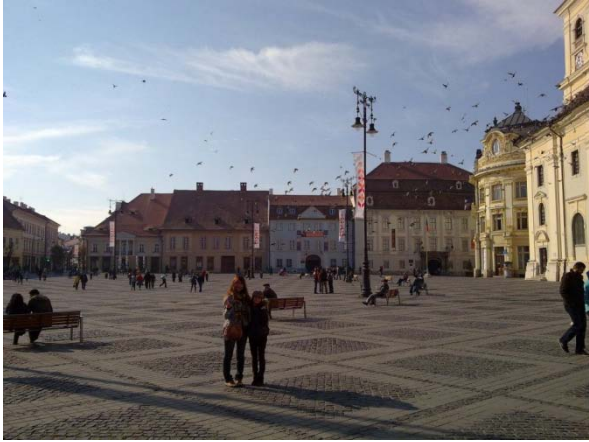
渡航年月日：2011年2月24日

帰国年月日：2012年2月12日

○研究・学習概要及び今後の勉学計画

私がブカレスト大学で英語を学ぶ上でまず驚いたことは、学生の英語力のレベルの高さでした。ルーマニアの母語はルーマニア語ですが、ほとんどの学生が英語を当たり前のように話すことができ、その上での講義でしたので、講義全体のレベルの高さに愕然としました。はじめのうちは、各学年の様々な英語のクラスに参加し、実際に自分の興味のある、自分のレベルに合った講義を選択しました。Practice Courseでは、主に英文法を演習形式で学びました。その他の授業では、講義とセミナーがあり、講義で学習した内容をセミナーで問題演習やプレゼンを行うことで、確実な力をつけることができるという形になっていました。

ルーマニアに留学して、どうして英語？と何度も聞かれました。確かに発音や、日常英会話を身につけるには英語圏に留学するのが妥当かもしれません。しかし、「コミュニケーションをすること」に焦点を当てたとき、英語はコミュニケーションのひとつのツールであり、それを利用することでコミュニケーションをとれるのは、英語圏の人だけではないと思いました。また、私たち日本人と同じように、第二言語としてほとんどのヨーロッパの学生が英語を学習し、当たり前のように英語を話します。その学習の違い、教育の違いは何なのだろうと興味を持ち、あえて英語を母国語としない国での留学を選びました。将来英語教師を目指す自分にとって、この留学は本当に自分の考え方、教育についての見方を考え直させてくれるものとなりました。



10月 Sibiu という街を旅行した時



5月 Easter ルーマニアの伝統衣装

○生活面について

ルーマニアは日本に比べて大変物価が安く、寮費、交通費、生活費全般合わせても日本での生活の半分くらいの費用で生活できます。ルーマニア人はラテン民族ということもあり、とても親しみやすく、陽気で明るい人達ばかりでした。私の学部にはほとんど留学生がいなかったため、ルーマニア人の友達との交流がほとんどでしたが、「日本人だから」「外国人だから」という観念なしに、心から自分を受け入れてくれる、本当に温かい仲間に出会えました。あいさつ、礼儀、生活スタイルなど、自分が日本で『当たり前』と思っていることは、一歩そこを出れば通用しないということを強く実感しました。また、自分が秋田大学の学生である以前に、自分が日本人として見られていること、またアジア人として見られていること、それなのにいかに自分が日本を知らないかということに気づかされました。



2月 日本語学科の1年生と

○1年間の感想

ルーマニア語もルーマニアという国自体もよく知らない状態でルーマニアに飛び込んで、ほとんど日

本人のいない中で1年間こんなにも有意義に過ごせたのは、いつも自分を支えてくれた友達のおかげだと思っています。ルーマニア人の広い心、誰とでも簡単に仲良くなってしまうところなど、礼を重んじる日本人とは違った接し方で、自分を仲間として受け入れてくれました。私自身も、自分の殻を打ち破り、ルーマニアの文化になじみ、ルーマニアを理解しようと変わることができたと思います。英語力を確かなものもしたいと思って決めた留学でしたが、得たものはそれ以上でした。ルーマニアで出会った友達一人ひとりが、私の生涯の財産です。この1年が自分の今後の進路だけでなく、自分の生き方、そして秋田大学とブカレスト大学の未来につながればと思います。

最後に、このような貴重な機会を与えていただき、さらに往復の旅費の援助をしていただいた秋田大学、そして留学実現に尽力して下さった皆様、本当にありがとうございました。



2月 帰国前のサプライズ・パーティーで